

## 弁理士ジョージの相談室 Q & A

ジョージ先生、私は町工場を経営しているのですが、最近、外国からの引き合いもありますし、外国でも特許を取りたいのですが、費用が高額になったり、為替の影響を受けたりしそうなので、相談にまいりました。



そうですね。外国に出願する場合、その国において指定された言語に翻訳する必要もあるので翻訳費用が発生するなど、弊所費用、現地代理人手数料、現地の庁費用などが発生します。また、要件を満たせば利用することができる補助金もあります。あと、募集期間が限られていますので、事前にチェックしておくことをお勧めします。

わかりました。補助金は外国への出願時又は各国移行時のみが対象ですか。



特許出願に関しては中間手続についても対象になる制度もあるようです。

なるほど。募集期間をチェックして、利用できそうなら申請してみます。



申請の際には特許出願の内容も記載することもあるかと思いますので、必要であれば記載についてもご相談いただければと思います。

はい。そのときは是非よろしくお願ひいたします。



### 日本弁理士会マスコットキャラクター“はっぴょん”

「はっぴょん」は弁理士制度100周年に当たる1999年に誕生しました。?マークが帽子をかぶっているようで面白いでしょう。「はっぴょん」の名前の由来は「アイデアが「はっ」と湧いたら「ぴょん」と弁理士に相談してね」です。はっぴょんは、私たちの生活に関わる知的財産についてわかりやすく教えてくれます。

### 特許庁からのお知らせ

特許行政年次報告書2025年版を発行しました



2025年版冒頭に、産業財産権制度140周年を記念して、過去10年間の知財関連動向を振り返った特集記事もございます。  
ぜひ、以下のリンクからご覧ください！



Web版は[こちら](#)！

### 特許行政年次報告書 2025年版



### JPA Information

「知財リテラシー診断」実施中！



日本弁理士会広報センターでは、知財リテラシー診断を実施しています。この診断は、身近な知財に関する設問を通じて、基礎的な知識や理解度を確認できる内容となっています。知っていると思っていたことにも、思いがけない発見があるかもしれません。知財に関する知識を把握する機会として、ぜひご活用ください。

知財リテラシー診断

<https://www.jpaa.or.jp/senryaku2025/diagnosis/index.html>

中小企業・スタートアップ向け知財情報サイト  
<https://www.jpaa.or.jp/senryaku2024/>

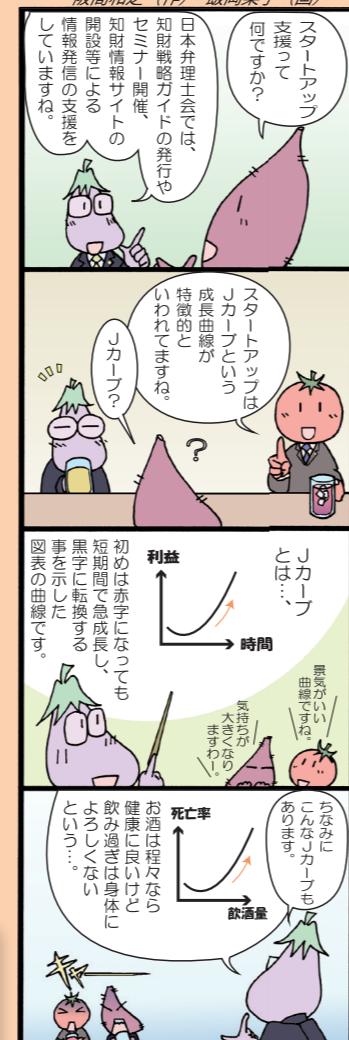


日本弁理士会  
広報誌

「PATENT ATTORNEY」は  
「弁理士」のことです。

### なすびくん のお仕事

阪間和之(作) 飯岡菜子(画)



PATENT  
Attorney

パテント・アトーニー

2025  
VOL.119  
秋号



ヒット商品は  
こうして生まれた！

ヒット商品を支えた  
知的財産権

多彩な商品開発でブランド力を高める  
オリオン商標を活用した  
ライセンス商品

- シリーズ特產品  
(石州和紙(せきしゅうわし))
- 知っておきたい!この技術  
トレンドてっく  
(mRNA医薬)
- 知財miniトリビア
- 弁理士ジョージの相談室
- 漫画「なすびくんのお仕事」
- 特許庁からのお知らせ
- JPA Information

ヒット商品はこうして生まれた!  
ヒット商品を支えた

# 知的財産権 [vol. 119]



## オリオン商標を活用したライセンス商品



### 多彩な商品開発で ブランド力を高める

沖縄を訪れる若い人々は、まずオリオンビールのロゴが前面に入ったTシャツを購入し、これを着てビーチで遊び、食事を楽しみ、そうした光景を撮影してSNSに投稿するのがトレンドだという。オリオンビールのロゴは沖縄を示すアイコンとなっているのだ。オリオンビール株式会社は1959年のビール発売以来、地域に根ざし沖縄とともに発展してきたブランドとして、そのロゴとともに県内外で認知されている。同社はドラフトビールをはじめとする飲料事業に加え、商標を活用した多様なライセンス商品が売り上げを伸ばして新たな事業領域を広げてきた。

同社のライセンス商品の始まりは2010年頃、生産拠点である名護工場の見学者向けグッズとしてTシャツを作ったことだった。2011年には同工場にオリオンビール史の展示ギャラリー、沖縄のお土産品ショップ、ビアレストランを併設した「オリオンハッピーパーク」を開設した。同社法務・コンプライアンス部の笛瀬宏明さんは「ハッピーパークを契機に、商標を活用してビール以外の商品を大きく広げる本格的な取り組みが始まりました」と振り返る。Tシャツなどのアパレル製品は当初からOEMの形で外注した。その後、ライセンス事業もスタートし、2010年代の後半にはSNSを

通じてライセンス商品が県外でも知られるようになり、需要拡大が見込まれていた。

その流れにコロナ禍の影響もあり、2020年にオリオンビール公式通販サイトを立ち上げた。これにより、県外の人に沖縄を楽しむアイテムとしてアピールするため、県内のアメカジブランドなどとコラボした商品開発に力を入れるようになった。さらにアメリカのアウトドアウェアの老舗ブランドであるチャムスでのパーカー、ショートパンツなど多彩な商品を開発してきた。

2023年にはライセンス商品開発やマネジメントに特化した部署が新設されている。

ライセンス商品を開発する同社マーケティング本部ライセンス課長の新谷俊作さんはライセンス先を選ぶ基準は「沖縄の美しい海、自然とともにある弊社のブランドに共感してもらえることです。コラボレーションの場合は知名度や波及力も重視しています」という。

ライセンス商品のいずれもデザインの提案を受けて同社のブランドイメージに合致するか検討し、修正を求める場合もあるという。一方で、地元スーパー・マーケットから普段使いできる商品の要望や、プロバスケットBリーグの琉球ゴールデンキングスとの商品開発など、県内マーケット向けの商品も拡大している。また2025年春には幅広い支持層を持つ漫画・アニメ「ちいかわ(登録商標)」とのコラボで

ライセンス商品はビールとは違う入り口からオリオンビールに関心を持つ人を増やすメリットもある。普段はビールを飲まない人が、オリオンビールに親近感を抱く。ライセンス商品は、従来は接点のなかった新しいファンを獲得する効果的な回路ともなり、ブランド力の向上と収益の拡大に大きく貢献している。



商標登録 第5879948号 ほか



## 石州和紙(せきしゅうわし)

商標登録 第6041313号



石州和紙は、島根県西部(石見地方)で生産される手漉き(てすき)和紙です。石州和紙は、地元産の楮(こうぞ)を主原料に、強韌さと柔軟さを兼ね備え、繊細で、紙肌が滑らかで、やさしい光沢が特徴です。石州和紙は、水に濡れても破れないほど丈夫で、乾かせば元のように使え、黄味かったその色合いが、時を経るにつれ白く美しくなる特徴も備えています。石州和紙の始まりは、平安時代の書物に石州の名前が記されており、奈良時代に柿本人麻呂が民に「紙漉きを教えた」という記述も江戸時代の書物に見られます。江戸時代には大阪の商人が石州和紙を帳簿として使用し、火事が起きた場合でも帳簿を井戸に投げ入れ焼失をまぬがれたと言われています。1989年には石州和紙が経済産業大臣から「伝統的工芸品」に指定、石州和紙の用途は幅広く、原料として楮以外にも・三桠(みつまた)・雁皮(がんぴ)を用いた一枚ものの和紙から、石州半紙をはじめ書画用紙、画仙紙、賞状用紙、染め紙、その他の多種多様の和紙があります。また、石見地域の伝統芸能である石見神楽の神楽面・蛇頭などに石州和紙が用いられています。近年では、リゾート施設や近隣施設の壁紙、浜田市が発行する結婚記念証の紙など和紙の用途が拡大しています。浜田市内の小中学校では、職人が一枚一枚手漉きした石州和紙の卒業証書が卒業式で授与されます。浜田市石州和紙会館は、石州和紙の手すき技術を伝承する研修施設として使用されるとともに、石州和紙の普及・振興活動を行ない、また、だれでも手漉きを体験することができます(手漉き体験要予約)。

このコーナーに掲載御希望の方は、「特產品」のプロフィール・連絡先を右記までお送りください。 Fax 03-3519-2706 Mail panf@jpaa.or.jp

### 知っておきたい!この技術 トレンドでっく mRNA 医薬

的な装飾をする技術は、mRNA医薬の可能性を大きく広げた。

mRNAはDNAからコピーされたタンパク質の設計図で、ワクチンは病原体のタンパク質の塩基配列から作製したmRNAを投与して体内に病原体のタンパク質を作り、免疫を獲得させるものだ。対象とするウイルスのタンパク質の塩基配列がわかれれば、短期間でワクチンを作ることができるだけでなく、変異にも対応できる。またmRNAは体内で素早く分解されるため長期間にわたり影響を及ぼすことがないとされる。

すでに世界ではCOVID-19のほか季節性インフルエンザ、ノロウイルス、ジカ熱などの感染症ワクチンに加え、がん治療ワクチンでも治験段階のものが数多くある。がんの場合は、がん細胞の表面に作り出される特殊なタンパク質をmRNAで転写し、免疫療法のターゲットにして治療効果を生むというのだ。このほか自己免疫疾患、糖尿病、筋ジストロフィーなどでも治療薬開発が進められている。製造コストが高額という難点はあるが、mRNA医薬は治療困難だった疾病に治癒の可能性をもたらすと期待されている。

## 知財 mini トリビア

### 第19回 標準必須特許(SEP)に至る標準化の歴史

新しい技術が出てくると、製品間の互換性や接続性を確保するための標準規格を作る必要があります。その標準化のために必要な特許のことを「標準必須特許(SEP: Standard-Essential Patent)」と呼びます。

そもそも標準化は古代から存在していました。言語や文字、度量衡(長さ・体積・重さ)、貨幣铸造基準の統一化などです。産業革命がはじまり大量生産が進んだことで、1841年に英国で世界初のねじの規格「ウィットウォースねじ」が作られました。その後、国際貿易を円滑化するために標準化の機運が高まり、1906年に世界初の標準化会議として「国際電気標準会議(IEC)」が設立されました。20世紀後半は通信分野(電話・インターネット等)での相互接続性の必要性が高まるようになりました。特に2000年代以降、モバイル通信技術の標準化が進む中で、「特許権が技術普及の障害にならないようにする仕組み」としてSEPの重要性が注目されるようになりました。なお、SEPの権利者には、公平・合理的・非差別的(FRAND: Fair, Reasonable And Non-Discriminatory)な条件のライセンスが求められます。

今や家電や自動車もインターネットに繋がるようになりました。さまざまな業界もSEPに関わるようになりました。SEPを巡る動向は各國間のパワーバランスにまで影響を及ぼす可能性があり、ますます目が離せなくなっています。(弁理士 稲穂健市)